

このまちの100年

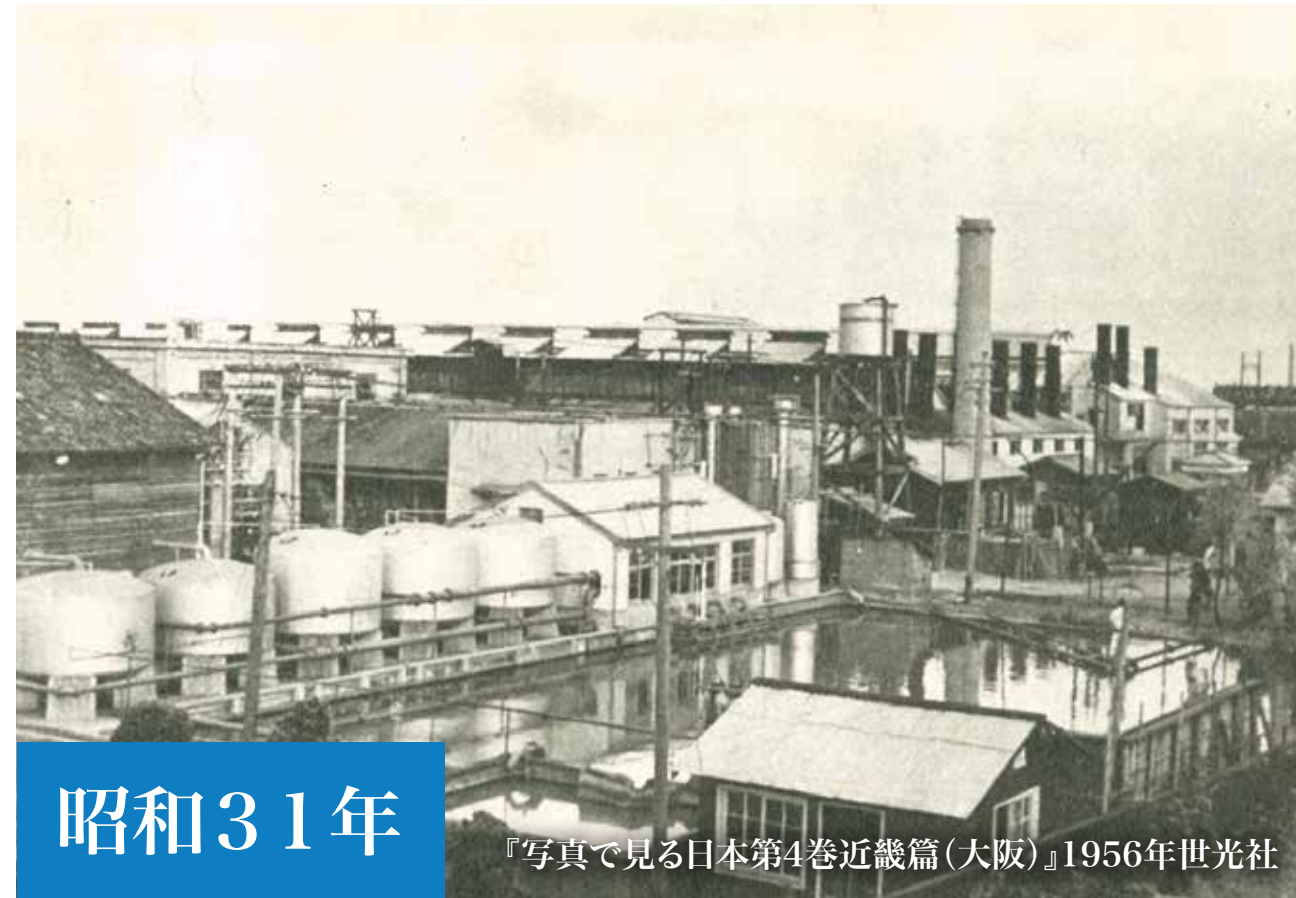
「高槻」

現在の高槻市は、江戸時代の城下町、宿場町、商工業の町など、多様な歴史を背景にする街から成っています。京阪間に位置する利便性から、明治期以降は学校や工場の進出も多くあり、特に昭和30年代以降は住宅地としても発展しました。



昭和37年

日本で最初に開通した、高槻・茨木を通る名神高速道路。京都の山科工区から工事が始まった



昭和31年

大日本セロファン 高槻工場。戦後は国内最大手の商品包装用セロファンメーカーとなった



昭和40年代

明治9年、大阪・向日町間の鉄道開通時に高槻駅が開業した



昭和40年代

高槻町駅（現在の高槻市駅）開業後、高槻駅との間に商店が増加。新京町商店街（現在の高槻センター街）が形成された



昭和40年代

高槻市役所。高槻市は戦後、市街地の拡張や工場進出により人口が急増した



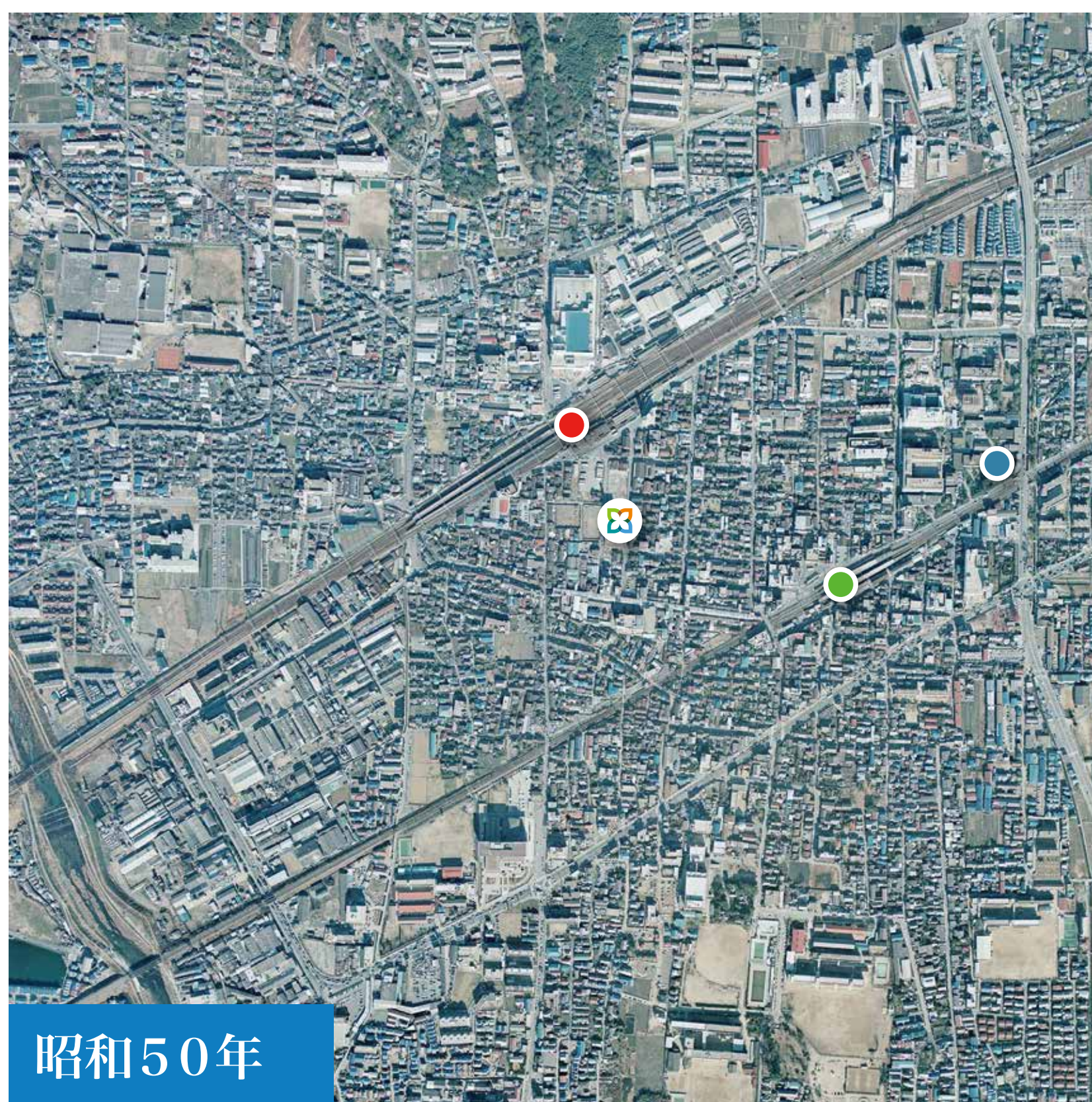
昭和62年

昭和53年度から平成5年度まで立体交差事業が行われ、高槻市駅は高架駅となった

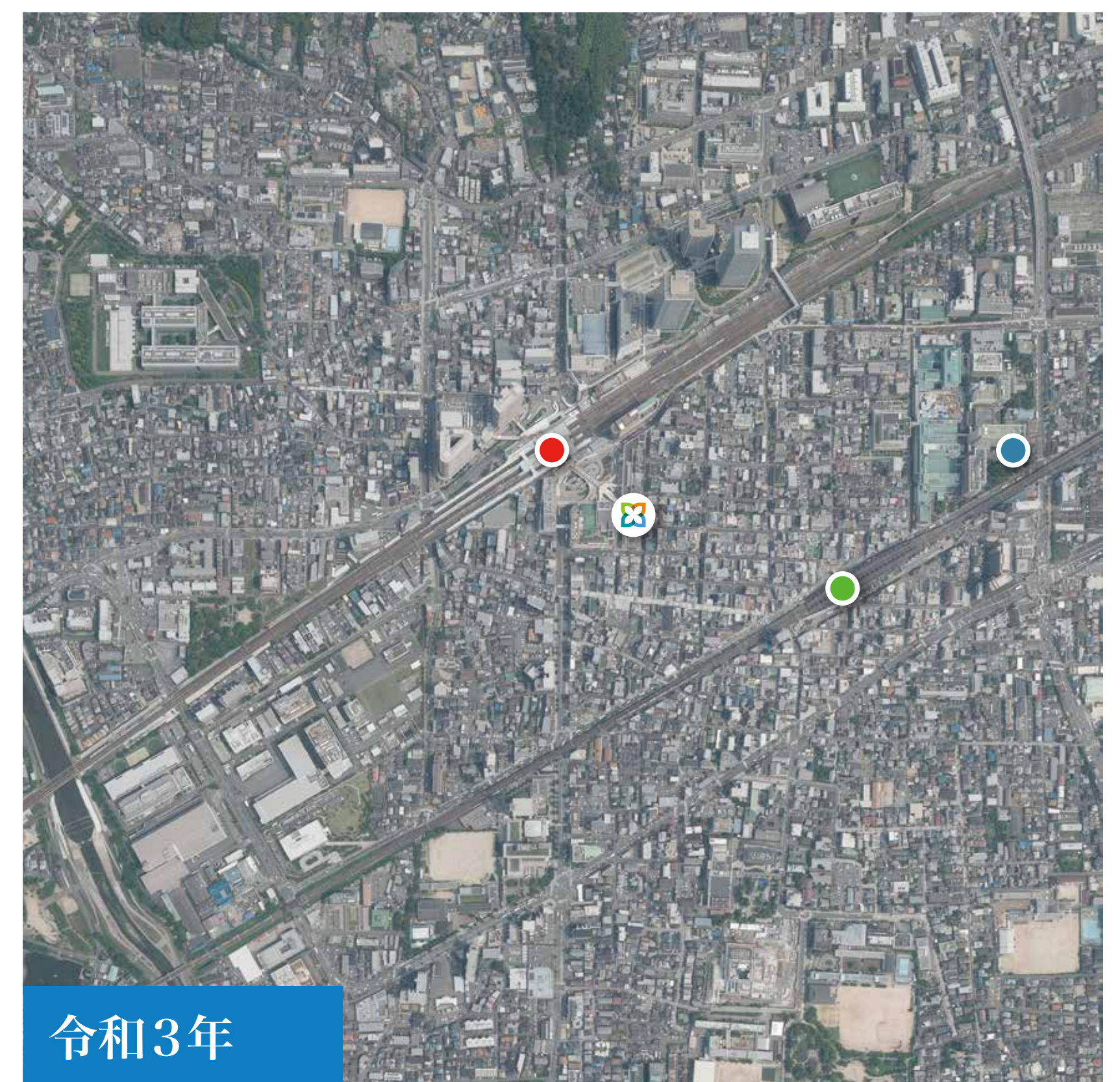
上空からみた高槻エリア



昭和23年



昭和50年



令和3年

：現在地
：大阪医科大学／大阪医科薬科大学 ：高槻市駅 ：高槻駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロモチ